



CM等でよく使われる風景

四万十町
町内「ふらへり」散策

茅吹手

かやぶくて

茅吹手

吹手といえば、何といっても沈下橋である。橋のデザインがシンプルなうえに、国道から離れていて周りに人工物がない。また、川の蛇行具合の程良いポジションにあり、どこから眺めても「これぞ四万十川の風景」と、人々をうならせる景観の主役を演じている。特に少し離れたところを走る国道から眺める景色は、CM等にもよく使われるように、四万十川中流域の景観の象徴とも言える。行楽シーズンでなくても、他府県からと思われる通りがかりのドライバーたちが、しばし車を止め、手持ちのカメラで、この絶景を撮影しているのをよく見かける。

正式名は「新谷(しんたに)橋」というのだそうだ。国道から橋へと降りる坂道に橋の説明書きがある。四万十川と、それと平行して走る国道381号の南北両岸に沿っ



国道から沈下橋へ降りるところにあります

て、茅吹手の集落が構成されている。16世帯、34人の小さな集落である。元々は、沈下橋の辺りを「茅吹手」川の北側を「屋敷(式)」といったという。

急峻な山に挟まれて、平地面積が限られていることから、この地区の人々は、山の斜面をうまく利用して家屋や田畑を作り、生活の場としてきた。かなりの知恵と工夫をこらして生活してきたことは、現在の地区の風景からもひしひしと伝わってくる。昔から川漁師の多い地区でもある。

全町的にそうであるように、この茅吹手も子どもの減少と高齢化が顕著な集落である。夏の盛り、沈下橋周辺で遊ぶのは、昔は地域の子どもたちであったが、今は観光客の人々の方が圧倒的に多い。しかし、それも、この景観に多くの人々が魅力を感じているからである。沈下橋と周辺の景観は、後世に残すべき宝物であることを実感する。

橋のすぐ近くを、トロッコ列車が行く。乗客の視線がこの素晴らしい景観に釘付けである。

町のうごき	(2月28日)		人口		前月比		出生		死亡		転入		転出		適正值(mg/l)		3月8日								
	男	女	計	世帯数	男	女	計	男	女	計	男	女	計	リン酸	硝酸	アンモニウム	アニオン活性剤	化学的酸素消費量	測定値以下	0.264	測定値以下	0.4	2.015		
	9,008	10,113	19,121	8,786	-19	-25	-44	3	4	7	15	14	7	22	36	≤ 5.0	≤ 0.5	≤ 5.0	≤ 1.0	≤ 10.0	測定値以下	0.264	測定値以下	0.4	2.015

(2月中の届出)

四万十川の
水質状況

調査：大正(吾川)
資料：四万十高校自然環境部

● 四万十町ホームページアドレス <http://www.town.shimanto.lg.jp/> ●

※ 広報「四万十町通信」はホームページでも、ご覧いただけます。(pdfファイル)